

大阪府市新大学構想会議資料

平成24年12月6日

1. 府大・市大ヒアリング結果

(1) 大阪市立大学

平成24年7月17日、20日、24日実施分

経営学研究科(商学部)(市大)

- 専門職大学院は、公立大学が財政的に最も苦手とするところ。
- 経済学研究科、創造都市研究科(アントレプレナーシップ、アジアビジネス)との連携が希薄。
- 教員減に対して、非常勤教員を戦力に何とか科目を維持している。経済学部との一体化のメリットがありそう。
- 課題解決型の商学部というが、実社会に対するアプローチが見えない。経団連や同友会会員規模の企業とも連携すべき。
- 大阪の非営利部門に対してマーケティングや経営の基礎を教え、その経営レベルを高めることを狙うのもよい。

経済学研究科(市大)

- 経済学研究科と創造都市研究科とは研究テーマが重なっており、一体化してはどうか。
- 「都市」が大学の横串の看板になるというのはストーリーとしては面白いが、一過性になる可能性がある。
- 実学的研究を敢えて否定せず、研究テーマ、研究成果として社会的にアピールすべき。
- 大阪であれば、都市工学と地域社会とにトータルで取り組む学問、都市科学部があってもよい。

法学研究科(市大)

- 公立大学はロースクール開設に際して国から財政支援等は無く、結局、教員個々の過重労働と有能性でカバーしている現状で、無理がある。
- 公務員志望とか企業の実務家の養成ニーズに十分対応できていないのではないか。
- 創造都市研究科の政治学系との連携が無い。
- 中小企業法律支援センターで価値のある事業をしているのであれば、それなりの対価を取るなど運営に工夫が必要。

文学研究科(市大)

- 考古学や美術史など、美術・芸術文化系の教員が少ないか、非常に少ない。
- 自治体が持つミュージアム系の施設との連携や、市の文化政策への関与が必要
- 全学共通教育を担当する教員が多いため、これをどう担っていくべきか。
- 「文学部」という学生に分かりやすい伝統的な看板を掲げつつも、中身を時代に合わせていくべきか、看板ごと時代に合わせるべきか。

理学研究科(市大)

- 府立大学の理学系と比較して、市立大学は、より基礎研究に重点を置いており、基礎科学の陣容が充実している。
- 全学共通教育を担当する教員が多いため、これをどう担っていくべきか。
- 大阪出身者が比較的多く、また最近の志願者数も増傾向にあり、関東圏の一極集中状態ではない。

工学研究科(市大)

- 府立大学工学部と市立大学工学部を単純に足しただけでは、シナジー効果が出にくい。
- 学内での医工連携を進めている。
- 国立大学ではなく、私立大学の工学部の特徴の出し方を参考に、小さくても光るもの、特化して生き残る方法も検討すべき。

生活科学研究科(市大)

- 工学部の建築学科と生活科学部の居住環境学科が、建築関係で似通っているように感じる。
- 資格が取れるということは、実利的にはっきりしている一方で、生活学(学問体系)というものは、はっきりしていない。
- 学生教育に関しては、需要が安定している資格系をまとめて学部としてもいいのではないか。
- 「都市」に依拠した研究をしているが、行財政、政策の関与が見られない。

医学研究科(市大)

- 医工学連携に加え、関西の産業界とも積極的に連携すべき。
- 府、市、保健所と連携して、国立、私立大学でできないことをやってみてはどうか。
- 産業として見た場合、医学は幅が広いので、医学部が中心となって、観光産業や食産業とのネットワークを作ってみてはどうか。

看護学研究科(市大)

- 公立大学として、専門看護師をめざす専門学校卒の看護師の受入に努めてほしい。
- 現状は看護学部を作るには教員数が足りない。
- 府立大学との統合を考えた場合、工学と看護とは二重行政と受け止められるので、両大学で第三者に説明できる良い案を出してもらいたい。

創造都市研究科(市大)

- 昼間のリソース活用が不十分ではないか。
- 情報系は、府立大学の現代システム科学の情報系と統合可能である。
- 社会人を中心とした大学院であるが、単独で持つのは珍しく、難しい。
- 現場の伸びている企業とのコラボレートなど、体系的な調査ができていない。
- 学生のニーズが“創造都市”にあるとは思えず、この単語に縛られる必要性はないのでは。

1. 府大・市大ヒアリング結果

(1) 大阪府立大学

平成24年7月23日実施分

現代システム科学域(府大)

- 環境や情報をミックスして教育するのは、縦割教育体制に対するアンチでいい。
- 現代システム科学域のようなカリキュラムは、教える側の押し付けではなく、学生自身に頭の中で融合してもらう必要。そうしたものが一番役立つ。
- 社会に出たときは、理系の分野も文系の分野の知識も両方必要。

工学域(府大)

- 他大学との比較では、大学院への進学率が高い、就職率も高い。
- 土木、建築、航空、海洋といった分野は両大学で補完しあえる。他はほとんど重複。
- 工学部の強みについて、前回の改革で議論されず、文系改革のみで終わっている。
- デザイン、薬学といった分野があってもいいのでは。

生命環境科学域(府大)

- 生命系を束ねて生命環境科学域となっているが、工学ほど体系性がない。
- 京都大学はiPS細胞で、大阪大学は創薬。もう少し実学的な農業関係でのバイオという新しい形態で取り組んだらどうか。

地域保健学域（府大）

- 看護師は供給が足りているかいないか、官がすべきかどうかという根本的な議論がある。
- 大阪の医療ニーズに対して最も効率的な形で関わってもらえればいい。
- リハビリテーション研究所のようなところと契約し、もう少しデータを集めて研究していくと、かなり進んだ府民健康医療の拠点となる。
- 教育福祉学類の取組みは、狙いは重要で面白い。